

令和2年度 第2回 三種町総合教育会議議事録

- | | | | | |
|---|------|-------------------------|-------|------------|
| 1 | 開催日時 | 令和3年1月27日（水）午後3時00分 | | |
| 2 | 開催場所 | 琴丘地域拠点センター 研修室 | | |
| 3 | 出席者 | 三種町 | 町長 | 田川 政幸 |
| | | 三種町 | 副町長 | 檜森 定勝 |
| | | 三種町教育委員会 | 教育長 | 鎌田 義人 |
| | | | 委員 | 水野 京子 |
| | | | 委員 | 佐々木 孝一 |
| | | | 委員 | 藤田 良博 |
| | | | 委員 | 工藤 智穂子 |
| 4 | 欠席者 | なし | | |
| 5 | 事務局 | 教育次長 | 後藤 誠 | 次長補佐 鎌田 誠 |
| | | 次長補佐 | 大高 博充 | 主席主査 児玉 知済 |
| 6 | 傍聴者 | 2名 | | |
| 7 | 協議案件 | 1) 三種町町立学校再編整備計画の承認について | | |
| | | ○別紙「三種町町立学校再編整備計画」 | | |
| | | ○今後の日程について（案） | | |
| | | ○令和3年度の準備等について | | |
| | | 2) その他 | | |

午後 3 時 0 0 分開会

田川町長 皆様、ご苦労さまでございます。先程は定例教育委員会ということで、再編計画の件についていろいろご審議されたことと思います。まず、教育委員の皆様には、日頃から町の教育行政に対して大変なご尽力をいただいておりますことを、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。先の総合教育会議において今後の小中学校の在り方について、皆様とご協議をさせていただきました。それと、その前に小中学校の在り方検討懇談会ということで、それらの意見書を踏まえた上で、今後児童生徒の教育のために町としてどういうふうな方法で学校の設置を決めていくかということの大きな課題をいただきました。それについて、教育委員会事務局並びに委員の皆様にはしっかりと協議、計画を組んでいただきまして、先日素案の方を見させていただきましたが、概ね町としてもこの方向でまとめていくのが適当なのではないかと、そのような認識をしたところでございます。先程の委員会で揉んでいたものを、この総合教育会議においてしっかり審議した上で承認して行く方向で行きたいと、このように私は考えておりますので、引き続き皆様方からいろいろなご意見をいただきながら、町の子どもたちの教育のためにしっかりとした計画を策定して進んで行きたいと、思っておりますので、引き続き皆様からのご協

力をよろしくお願いします。

後藤次長 ありがとうございます。続きまして教育長よりご挨拶をお願いします。

鎌田教育長 ご苦労さまでございます。子どもたちに今以上の教育環境を作るために、多くの皆様からご意見いただいて整備計画を策定いたしました。未来ある子どもたちのより良い環境を整えるための再編でありますのでよろしくお願いします。良い環境で子どもたちが教育を受けることは、保護者にとっても町にとっても地域にとっても大きな利益であると思います。合併して15年になります。この再編を通して地域の一体感を生み、そして一体化に進んで行ければなど。更に中学校が1校になると、これは町民の目が同じ方向に向くと、そういうことで私は合併が本物になるのではないかなということを期待しております。町長もお話しましたがけれども、今日は慎重審議をして承認していただいてこの後に進んで行きたいと、そういうふうに思っていますので、どうかよろしくお願いします。

後藤次長 ありがとうございます。そうすれば次第の4から町長より進行をお願いします。

田川町長 それでは、暫時私から進行させていただきますので、皆様からは慎重な審議にご協力いただければありがたいと思っております。それでは次第に沿って進めたいと思います。次第の4、議事録署名委員の指名でございますが、佐々木委員にお願いしたいと思います。

佐々木委員 はい。

田川町長 それでは早速ですが、協議事項に入らせていただきます。「三郷町町立学校再編整備計画の承認について」を協議したいと思います。教育委員会事務局より説明をお願いいたします。

＝事務局説明＝

資料のとおり説明。

＝事務局説明終わり＝

田川町長 ありがとうございます。ただ今の説明についてご意見、ご質問等がございましたらよろしくお願ひしたいと思います。

水野委員 単純な質問をしてもよろしいでしょうか。お金の面で、山本に1校、八竜に1校というのは方針として決まって、八竜はちょう

ど真ん中にある八竜中と、とてもよくわかるのですが、山本について山本中を使うという場合に、山本中を合併特例債を使って大きく改修をすると、その後結構使えるだけ良い具合になるというか、どの校舎も老朽化はしているわけじゃないですか。山本中もそうですよね。そんなに新しいわけではないですよね。それをあえて小学校でなくて中学校を改修してそこに入れるというのは、その後お金がかかるのではないかというイメージがするのですが、山本中に持っていくメリットというか、そこがどこにあるのか、説明でちょっと見えなくて。

後藤次長

この中には書いていないですけれども、森岳小の方が古く、2、3年は古いです。それから校舎全体、敷地面積が狭くて駐車場の確保やグラウンドを使った運動会の開催に大変難儀をしているということもあります。そうすると山本中は規模的にも大きいですし、施設も若干新しいということもありますので。逆に新設中学校を建てたときに、山本中を使わないということの理解を得られる方が難しいのではないかと、新しい学校を使わないで古い学校を使うということの理解も少しあったわけですね。ただ、八竜中もそんなに新しいわけではないのですけれども、同じように浜口小が動いたときに、いろいろご意見が出るのであったら中間がいいでしょうということです。山本中の場合は、森岳小の学習環境につ

いてちょっと大変だろうというのが一つと、山本中より古いというところも含め、山本中にした方がいいのではないかという計画になりました。

鎌田教育長 山本中学校の改修について、平成24年に大きい改修を2つ行っています。特別教室棟と本校舎の外壁など、かなりのお金をかけて改修してあります。それから水野委員がお話した中で、大きい学校を改修するとなれば相当のお金がかかるのではないかということですが、それはお金のかけ方にもよると思います。山本中学校全部にお金をかけるのではなくて、必要最小限の部分にお金をかけて改修をすると。今、鷹巣南中学校を清鷹小学校という2つの小学校が集まって入るために工事をしているのですけれども、そういう事例も参考にしながらを改修していけば良いのではないかということで精査して進めたいと思います。森岳小と山本中を比べれば山本中が大きいのですが、全部改修してやるわけではないので、次長が話したようにグラウンドや駐車場等の改修で考えれば山本中学校の方の校舎を使った方がよいだろうということで今回の計画に盛り込んでおります。それからもう一つ、小学校なので放課後児童クラブ、これは大変問題になっているのですけれども、山本中は大きな校舎なので確保する場所があります。トイレもついている特別教室棟や技術室を改修すれば児童クラブがそ

こに入れる。そういう有利なところもあります。

佐々木委員 八竜については、小学校は湖北小等いろいろな意見があったのですが、最終的に八竜中学校を改修して小学校にすることになりました。そこは地域バランスがありますので、八竜中が一番場所的によろしい案だと思います。森岳地区も八竜地区も計画書に書いてないのですが、保育園もそれぞれ近くにあれば、なお一層便利になるし、お互いの交流もできて非常にいい適地ではないかと思っております。

藤田委員 山本中学校の活用についてなのですが、なかなか妙案はないのかなという感じはするのですが、今の森岳小学校のメリットは、通学の面では森岳地域はちょうどいい感じの距離にあって、そういう点では落ち着いている。そして保育園が全部あそこに集まると、幼小の連携という点では非常にいい場所ではあるのです。けれども、校舎の敷地の狭さとかを考えると、近隣のところを新たに全部買収してという訳にはいかないと思うので、やはり山本中の校舎を使わざるを得ないのかと思いますが、もしかしたら森岳地区もスクールバス等を活用しなければいけないような距離になってしまうかと。中学校の方は金岡、下岩川地区からスクールバスがありますから、同じ敷地にあると活用が併せてできるメリ

ットはあるけれども、森岳地区にも当然必要になってくるのだらうと思いますので、一つ一つクリアしていかなければいけない問題がいくつかあると思います。もう一つ、13年度以降という、それがいつになるかわからないのですが、もしかしてこのまま減り続けて、すでに合併時より半分も減ってきていますから、更に減っていったときに小学校をどこかに1校を造らなければならない時が来ると思うのですが、水野さんが話されたことも関係するのだと思うのですが、改修にお金をかけて何年使えるのか、そうすると、改修した学校が少し惜しいという感じになるのではないかと、ただし、メリットとしては、山本中に小学校があれば小と中と併設ではないけれども、連携する方策等を探れるメリットはあると思います。なかなか難しい部分はあるのですが。

後藤次長

今、藤田委員からお話ありましたけれども、琴丘中学校、八竜中学校でも遠距離通学の生徒さんはいらっしゃいますので、そういうときにはスクールバスが無いので、通学の補助金というものを出して対応をしています。小学校は4km以上になると遠距離通学の補助対象となりますので、各小学校で何名かの方がいらっしゃるようです。しかし、人数が少ないとバスを出すというのがなかなか難しい部分があるかと思いますが、仮に森岳地区で、山本中まで行くとすれば二ツ森地区あたりが遠距離の範囲

に入ってくると思います。温泉地区はまだ遠距離に入らないと思います。補助を出すか、スクールバスを出すか、これから調査していかなければならないと思っています。また、現状例えば令和7年度に小中学校を全部やれば600人規模の学校になります。そうするとまた学校の規模もかなり大きくなるのですが、仮にそれが10年後になれば、たぶん半分くらいになってしまうのです。そうすると新校舎の半分が余裕教室になってしまうので、そういったことを考えると、大きい学校はいらないのではないかというのも考えられます。ですので、中学校を建てることで、その中学校が10年後にはどういう状況になるか、おそらく令和15年くらいになると全校で約120、130人位になってしまうのです。今のまた更に半分以下になってしまうのです。そうすると中学校にも空き教室ができることで、その部分に小学校が入ることも可能になることも予想されます。八郎潟小中学校が現状そのスタイルで併設校としているので、新中学校の規模に、10年後には小学校が入れる規模になるか、それはこれからシミュレーションしないとわからないのですが、更にその中で教室を改修しながら学校運営をすることで、その中に入る可能性も出てくるとも予想されます。八郎潟中学校は平成9年位の建設で、大分新しいです。その中の余裕スペースの中に更に教室を造りこんだりしてやっています。そういう建て方も可能ではないかと思います。

佐々木委員 今、次長の方から詳しい中学校の話が出ますが、中学校に、小学校も入って、大幅な改修をしなくてもいいような設計を依頼していくということですよ。

後藤次長 はい、10年後になるか、その辺の時期はわかりませんが。

佐々木委員 例えば、新しい中学校を造り、その仕様が、小学校も対応できるような仕様にしていくということですか、例えば階段の高さが小学校では16cmという基準がありました。その辺りもクリアできるような構造にしていくということですね。そうしないとまた後で改修しなければならないということが出てきますので。その高さが、どこがいいのかはわからないのですが、例えば琴丘中学校は、小学校でも対応できるような高さだということですよ。

後藤次長 学校によってはそういう校舎もあります。

佐々木委員 できるだけ、後に再改修はしないような、学校の設計がいいのではないかと考えています。もう一点ですが、令和13年度以降の話はまだしっかり決まったわけじゃないですよ。可能な限りできる限り3校の小学校が長く継続できるようにやったほうがいいと思います。令和13年度だとこれから10年後なので、令和8

年に小学校が新しい所に行って、令和１３年でまたさらに統合となれば、子ども達の母校が一体どこになるのかということにもなるわけで、可能な限り今の３校体制でいけばいいと思っています。今後の出生数の問題などで、わからないのも当然あるとは思いますが。

後藤次長 実際、令和１５年で、中学校で１３０人台になる推計です。

佐々木委員 それは中学校に入れるだけの人数とかクラスのスペースができるというだけの話であって、すぐ他の小学校が中学校に来いというわけではないですよ。

後藤次長 はい、ありません。

佐々木委員 ですから、そういうスペースができたからすぐ再統合とならないようにしていただきたいと思います。

後藤次長 そうですね。今回の計画は１０年で、その次の１０年の話になるのですが、逆に令和７年度で小学校を再編、新１校化したときに、特例債的な部分や起債の部分で、すぐまた改修というわけにはいかないで、ある程度１０年、１５年スパンでの設計等も踏

まえながら考えていかなければいけないと思います。

工藤委員 この案はよく考えられたなという感じで、八竜にしても山本にしても中間のところに2校が一緒に入るとことは不平等感がないというか、みんな同じ時期に同じ気持ちで一緒に入るというのは、財政が許すのであれば、それが一番心情的に良い。この目標に向かって行くには、やはり軸が決まらないと何も決まっていけないので、目標を立てて、どうしたらみんながより良く通学できるかという方法を考えていった方が、物事が決まっていくと思います。この案が実現できるのであれば、それによっていろいろな所をクリアしていけば一番いいと思います。

藤田委員 さっきもお話をしましたが、このスケジュールは、私は凄く良いなと思います。小学校も、山本と八竜も足並みを揃えてということであるとか、中学校もいろいろ考えれば早い方がむしろメリットがあるように思いますし、このスケジュールで進めていければ一番良いのではないかなと思います。後は財政のことであるとか、通学のこととか、いろいろなことを考えて、可能であれば、あるいは施設の面で、プールの問題だとか、そういったこともあると思いますが、様々な状況を積み上げてやれるのであれば、このスケジュール非常に良いと思います。

田川町長 町としては有利な財源があるということで、合併特例債も期限が一つあるのですが、もう一つ、現在、次年度予算の査定等を行っています、やはり学校関係老朽化によっていろいろな施設に不具合が出ているということが多々見られる状況です。先に、何年に出来るとなると、予算のかけ方もある程度制限というか先を見据えた修繕等の計画がしやすくなるので、その意味では、この案が皆さんに承認いただければ、教育委員会と町としっかり協調して向かっていきたいと思っています。どうしても心配されているとは思いますが、我々としてはこの先30年40年先を見据えて、子どもたちの教育環境の整備を今やらなければという思いがあります。それには多少の財政出動はやむなしだと思っていますので、そういう意味では皆さんからしっかりしたご意見をいただければ、それに向かってやっていく覚悟でありますので、いろいろなご意見を言っていただきたいと思います。

藤田委員 設置する年度とか、そういった事ではない話でもいいですか。

田川町長 はい、結構です。

藤田委員 9ページと10ページに再編に伴う支援措置があり、対応とか、確保といったものを考えているようなのですけれども、④のどこ

ろの地域の活動場所併設に関係するのかもしれませんが、再編していくとそれまで関わってきた地域の方々が、学校が無くなったことに対する喪失感といったものを持つてしまうのではないかと思います。これまで学校にはたくさん協力してきた地域の方々は、今後も関わってくれるはずなのですけれども、地域の協力があって特色ある教育活動ができていると思います。そのところを何とか解消する、手立てをしていくことがないかと考えたのですが、コミュニティスクールという発想があって、近隣市町村でもやられているようです。そういう組織なりを作って今まで学校に深く関わってきた人たちに入ってもらい、学校と協議、あるいは学校の求めに応じて活動してもらおうというような、そういう方策が何か必要でないかと思いました。以前、下岩川保育園が森岳に移るというときも、地域の方々は、何もやることなくなくなってしまったというような声がありました。小学校でもそういうことにならないように、あるいは中学校でもそうならないように、地域の方々を巻き込んでいくような、そういう方策も検討していただければと思います。

鎌田教育長

学校の行事を、無くなった学校のところに行って運動会をやるなど、いろいろなやり方はあると思いますので、そこは藤田委員がおっしゃったように地域と話し合いをしながら、できるだけ交

流を深めていかなければならないと思います。やはり地域の方の結びつきが無くなるのではないかなという心配もあると思いますので、この後十分に協議してやっていきたいし、やるべきだと思います。能代の、鶴形小、崇徳小が閉校しましたが、鶴形小に行ってそば作りをやってみたり、崇徳小で運動会をやってみたり、様々なことをやっているの、参考にしたいと思います。

藤田委員 いずれ準備委員会等で積み重ねていくと思うのですけれども、今年度から下岩川は準備委員会がスタートということになるので、そういった点をお願いしたいと思います。

水野委員 感想なのですけれども、今回また町の人たちと再編会議といいますか、意見書を出すにあたって、若い人たちにも集まってもらったときに、若いお父さん、お母さんには結構切実でもあり、合理的でもあり、もう一校化しかないという声もたくさん聞かれました。ああそうか、そういうものなのかなと思いながらも、ただ、その中で決まっていたのは、やはり地域に学校を残したい。小学校はあるべきだという声があってそのようになった。地域に学校を残せたということは凄く大きな意味だと思うし、この時代の流れですから、あっという間に少子化になってもたないという、暗い見通しを私たちも持っているところもあるし、10年間とも

ったけど10年後はもう無理なのだろうというようなイメージもあります。ただ、やはり今回こうやって残せたことで、この地域、三種町というものが、各地域が、本当に勢いがあって、若い人たちも住みたいと思って人が増えて、今後に繋がっていくことを凄く希望するというか期待する、そんな学校になってほしいというのが感想です。以上です。

田川町長

確かに学校を再編して少なくなってきた、子どもが少ないから再編という話になるかもしれませんが、今後の規模を維持するという施策となれば、町としてやっていかなければいけないと思います。そういう子育て、若い人達が残れるような施策を行い、子育てしやすい町ですというところをこれから作っていかないといけないと思います。このまま行政が黙っていると若い人はどんどん減っていくと思うし、適齢の方が町を離れるとどうしても子どもが減っていくので、そういう人を一組でも二組でも留めておくような施策を我々が打たなければいけない。今、旧小学校単位だとなかなか厳しいけれども、旧町単位であれば、その規模を維持できるぐらいの人を、多少、人口が少なくなったとしても可能ではあると思います。それを継続して続けていかないと、結果というか、効果が出ないと思っています。前にも言ったのですが、小学校が一つの学校に集まるとなった時に、それは子どもも、親も

負担だろうと思うので、できれば今の3校体制は維持したいという気持ちがあるので、そのためには子どもたちがしっかり住める環境作りを行うのが最大の使命でございます。がんばります。他にはありませんか。

佐々木委員 前回検討した中で、校舎の利活用で教育委員会でも中に入ってやっていかなければいけないという意見もあったのですが、藤田委員が言ったようなものを活用しながら地域と、何でもかんでも校舎を壊すだけでなく、いかに利用していけるのか、それがまた地域の活性化にもつながっていけると思いますので、そこは検討委員会とはまた別に校舎の利活用をどうするかも含めてやっていけばいいと思います。私も小学校をできるだけ長く残していきたい。中学校は早くやったほうがいいと思うのですが、地域の活力ですから。三種町も逆に、子育てとか教育が良いという人もいるのです。だからそういう施策も図っていけば、少なくなる一方なのでしょうけれども、いくらかでも三種町がいいと来てくれる家族なり子ども方がいれば良いことだと思っております。

田川町長 他にご意見等がなければ、今回の整備計画のほうを承認することとしてもよろしいでしょうか。

出席者全員 異議なしの声。

田川町長 ありがとうございます。それでは町立学校再編整備計画の承認について、承認することといたします。ありがとうございます。それでは次第の6 その他ということで、事務局の方から何かありましたらお願いします。

後藤次長 事務局からはございません。

田川町長 以上をもちまして、三種町総合教育会議を閉会します。本日はどうもありがとうございました。

(午後3時57分閉会)

会議のてん末・概要に相違ないことを証明するためにここに署名する。

三種町長

署名委員